

令和5年度 第2回安曇野市総合教育会議 会議録

日 時：令和6年2月13日（火）午後2時00分

場 所：安曇野市役所4階 大会議室

<出席者>

安曇野市長 太田 寛、教育長 橋渡勝也、教育長職務代理者 遠藤正志、
教育委員 二村美智子、教育委員 羽田野賢二、教育委員 川北久美

<補助のため出席する者>

教育部長 矢口 泰、学校教育課長 藤澤一渡、学校教育課教育指導室長 臼井慎詞、
学校教育課教育指導室指導主事 矢野 司、学校給食課長 西澤弘修、
生涯学習課長 二木 正、文化課長 三澤新弥、子ども家庭支援課長 山越寿彦、
こども園幼稚園課長 佐々木真貴、学校教育担当係長 城ノ内高明
学校教育担当 宮下俊樹

<事務局>

学校教育課教育総務係長 高橋 満

<傍聴者>

報道機関 1名

傍聴人 3名

◎開 会

教育部長 皆さん、こんにちは。それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和5年度第2回総合教育会議を開会いたします。

本日の司会進行を務めさせていただきます教育部長の矢口でございます。よろしくお願いいたします。

なお、本日の総合教育会議は公開として行いますので、よろしくお願いいたします。

また、会議録作成のため、ご発言の際はお名前をおっしゃってからお願いいたします。

◎市長挨拶

教育部長 それでは、初めに、太田市長からご挨拶をお願いいたします。

市長 皆さん、こんにちは。市長の太田でございます。

今年度、第2回目の安曇野市の総合教育会議を開催いたしましたところ、皆様にはご多用の中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

令和5年度を振り返りますと、教育委員会の関連で申し上げますと、一つは、薪能です。明科出身の私どもの名誉市民であります青木祥二郎先生のお力によりまして薪能を明科龍門淵公園を会場ということで8年ぶりに屋外で開催できたことが一つ印象に残っております。県内の多くの皆様にそのすばらしさを堪能していただくことができたと考えておりまして、「文化・芸術のかおり高い安曇野」、教育大綱でもうたっておりますけれども、その一つとなっております。

それから、やはり新型コロナウイルスの感染症の位置づけが5類に移行されまして、学校や、あるいはこども園の教育活動も活発に行われるようになっていとお聞きしておりまして、うれしく思っております。

今回の総合教育会議では、来年考えております安曇野市中学生キャリアフェスティバルについて議題とさせていただきました。キャリアフェスティバル、安曇野市はこれまで堀金中学校で先行して実施してきた経緯がございます、来年度が市の中学校の全市に拡大して実施する方向で予算の計上ということで、今回の3月議会で提案するところでございます。

本日は、この事業の方向性のほか、安曇野市におきますキャリア教育の在り方、それから子どもたちの将来について望むことなどにつきまして皆様と率直な意見交換をいただきまして、議論を深めてまいりたいと存じております。限られた時間ではございますが、よろしくお願ひ申し上げます。お世話になります。

◎教育長挨拶

教育部長 続きまして、教育委員会を代表し、橋渡教育長からご挨拶をお願いします。

教育長 本年度第2回の安曇野市総合教育会議の開催に当たりまして、教育委員会を代表してご挨拶申し上げます。

太田市長におかれましては、平素から市の教育行政にご尽力を賜っておりますことに改めて感謝申し上げます。

さて、こども園、幼稚園、小学校、中学校では、あと1月ほどで卒園式、卒業式を迎えます。今、それぞれの学びのまとめに取り組んでいるところでございます。

ところで、先日の積雪では、慣れない雪道での登下校が安全に行われるよう、登下校時刻を柔軟に対応し、気をつけることを具体的に示すようにいたしました。歩道や歩行者に配慮した雪かきが追いつかない状況などがございました。交通安全に対しては大人も子どもも一層の注意が必要であると認識しております。安全・安心な環境の中で喜びの春を迎えてほしいと願っております。

さて、この時期は新たな年度に向けての様々な構想を練り上げる時期でもございます。このような折ですが、来年度新たに取り組む予定の安曇野市中学生キャリアフェスティバルについて取り上げていただきました。安曇野市が目指す「未来を拓くたくましい安曇野の子ども」に向けて、自ら考え、判断し、行動する力を高めていくキャリア教育を小・中学校を通じて継続的、連続的に充実させていくことが必要であると、取り組んでいる一つでございます。

本日は、この機会に市長と教育委員、教育委員会事務局とが今後のキャリア教育について理念や方向性を共有することにより、市を挙げての推進に向けて大きな力になるものと確信しております。幅広い視点から安曇野市の明るい未来についての話し合いを期待するところでございます。

では、どうぞよろしくお願いいたします。

◎協議事項

教育部長 それでは、議事に移ります。

議事の進行は、この会の主宰者であります太田市長にお願いいたします。

市長 それでは、議事の進行をさせていただきます。

協議事項、安曇野市中学生キャリアフェスティバルにつきまして、事務局、学校教育課長から説明をお願いいたします。

学校教育課長 「安曇野市中学生キャリアフェスティバルについて」資料により説明。

市長 今回、まず、安曇野市のキャリア教育の在り方といたしまして、子どもたちが進路や職業を選択するに当たり、どんな見識、あるいは能力を養っていくべきか、そのことに対して市や学校はどのような教育、支援をしていくべきかといったあたりから、皆様のお考えをお

聞きしたいと思います。

特に子どもたちの将来に対しましては、地元、安曇野に就職してほしいといった思いもあれば、大いに学び、様々な世界で活躍してほしいといった願いもあろうかと思っております。このあたりはどちらが正しいという話ではなくて、それだけに整理するのが難しいものでございますけれども、本日は、それぞれのお立場やご経験を踏まえた上でご意見を賜り、議論を深めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いしたいと存じます。

それでは、皆様からのご意見をお願いしたいと思います。

ご自由に挙手及び発言を。

遠藤委員 口火を切らせていただく形ですが、1月の定例会で今日の総合教育会議の議題についての提案があり、概要をお聞きしたわけですが、その定例会終了後なんですけれども、私、正直言って、この内容は非常にいいことであり、子どもたちの将来を考える上で絶対必要なことですので、あえて総合教育会議でわざわざ議題に上げなくてはいけないことなのかな、必要があるのかなということを正直思いました。堀金中の実践、2年間の実践があるわけですから、それを基に各中学校でもうどんどん実践していけばいいんじゃないかなということを正直言って感じました。失礼なことを言って申し訳ないんですけれども。

しかし、ちょっとその後、今日の会議もありますので、いろいろなことを考えて、今日の事前に頂いた資料とか、最近の社会情勢とか、一番は安曇野市の将来ですよね。それを考えたときに、ちょっと考え方が変わりまして、やっぱりこういうことは、こういうことをやる目的をさらにはっきりさせて、それぞれの立場の大人がその目的を共有して、今、この安曇野の子どもたちに考えてもらうきっかけとかチャンスを与えなければ手遅れになるんじゃないかなということを思いました。

手遅れになるということはどういうことかという、もう皆さんも知っていることを言うようなんですが、今までのキャリア教育というのは、資料1にもありますが、とにかく将来に向けての自己実現というのがメインです。社会的、職業的自立であったりするわけですが、一言で言えば、生徒一人一人の将来に向けた取組が中心で、それはそれで当然、今までもこれから大事なことだと思います。ですが、先ほど言った手遅れになると言ったところがここなんですけれども、現実問題として、今、少子高齢化とか過疎化はどんどん進行していますし、それに加えて、将来はオートメーション、ロボット化、AI化等が進み、言えば、今ある職業の60%は数十年後にはもうなくなると。なくなるというか、必要がなくなるということがもう世間では言われているわけですが、つまり、仕事がなくなってしまうということ

ですね。仕事がなくなれば、やっぱり若者は都会へ仕事を求めて行ってしまいます。そうやって人がいなくなれば、町は廃れていく。そういう悪循環に陥っていってしまうと思います。

最近では、皆さん知ってのとおり、松本市でも、誰もが知っている大型商業施設が近々撤退するというニュースも出ていましたが、そのほか、昨日の新聞ですか。生産年齢人口があと25年で激減する。そんなような話題もあって、もう本当に働く若者、若い人たちが働くことへの不安というのがどんどんどんどん深まっていってしまう。安曇野市にもそういう波が押し寄せてきたときに、慌てて取り組み出すのではなくて、今回のように、今から準備しておく必要があると思います。

キャリア教育の目的に、一番最初に言った、今までの個々の将来だけではなくて、安曇野市の将来に向けた具体的な取組、内容を加えた安曇野市のキャリア教育というのが必要になってくる、そんなふうに思うようになりました。

ちょっと前段が長くなって申し訳ないんですが、そんなことで、あと、今、これからの方向性や具体的な取組については、また改めて発言させていただきたいと思いますが、ちょっと先に二つ質問なんですけれども、一つは、資料の5にある堀金中学校の実践なんです、4年、5年と2年間やったというふうになっていますが、2年間やって、何が変わったといえますか、令和4年でやって、反省をして、こういう課題ができたので、令和5年はこういうところをさらに工夫した、または、加えて取り組んだ、成果がこうだったというようなことがあれば、教えていただきたいということが一つと、あと、もう一つは、その資料の2ページにある、先ほど説明していただいたキャリア教育の体系なんですけれども、その必要性とか、正当性とか、存続性という観点から見たときに、この資料では、中3までしか載っていないんですけれども、高校ではどうなっているのかなということをお聞きしたいと思います。管轄がちょっと違うので、市としては難しい面もあると思いますが、働くことが年齢的には現実的になってくる高校との連携というのも地元を大切に考えるという上では大切、キャリア教育では大切になってくるんじゃないかと思います。

頂いた資料の中に、飯田市ですか。飯田市の資料の中には、高校での取組というのも具体的に書かれていますが、安曇野市の実態はどうなっている。安曇野市にある高校は今、高校再編成の渦中であって大変な部分もあるんですけれども、市として高校でのキャリア教育、地元を意識したキャリア教育の現状、実態、または今後の方向について、お分かりの範囲でもって教えていただければと思います。

市長 今の遠藤委員のご質問に対して何かございますか。

学校教育課長 まず、堀金中学校におきましては、当初、こちらのほうのキャリアフェスティバルのほうの実施に当たりまして、一番苦労されたのはやはり企業の皆さん、地域の方々にご協力を得ること、これが校長先生のほうも大変苦労されたということを伺っております。

ただ、1回目、とにかく今、関係を持っていたいただいた事業者さん、こちらにご協力をいただき、その活動を堀金地域内のそれぞれの企業さんのほうにも広げるということで、一番はその数が増えることができた。もう一つは、やはり生徒たちの関わり方というところ、これが大変学校側でも苦慮した部分ということでは伺っております。

今回、5年度につきましては、業者数も倍近くになりました。生徒たちの取組の仕方も一年前の活動の中から実践的に子どもたちがブースを回る、そういったことができるようになったと伺っております。

成果につきましては、こちらの資料のほうにもございますが、子どもたちの意識、こういったものが非常に変わってきているということで、今、私どもでちょっとお答えさせていただいた部分にはなりますが、この実践につきましては、各それぞれ市内の中学校で非常に興味を持っていただいております。今回、市内全域に広げることに关しまして肯定的な意見をいただいたところでございます。

教育部長 少し付け加えさせてください。

成果につきましては、子どもたちが普段知らない、看板くらいは見たことあるかもしれませんが、地域の中にある会社、事業所がどんなことをやっているのか。そして、そこでどんな、例えば生産がおこなわれているとか、どんなサービスが生み出されている、そういったことをじかにその人たちから聞くことができ、地元にこういうところがあるんだと、そういうところを改めて理解できた、そういったようなものが成果というふうに伺っております。

教育長 高校の取組については、私のほうで知り得た情報についてお話しをさせていただきます。

市内には四つの高等学校がございますけれども、南安曇農業高校と穂高商業高校が専門高校でございまして、専門高校は従来から課題研究というのが教育課程に組まれております。それぞれの学校でその発表会が行われまして、市でも、それぞれの担当部局であるとか、お招きいただいて、発表を聞く機会があるんですけれども、今年は1月24日に穂高商業高校の課題研究発表会に私もお招きをいただきまして、半日、聞かせていただきました。

穂高会館の講堂に全校生徒、それから保護者と一般の方々もお見えになって、穂高商業は穂商マーケットというのを年間を通じて取り組んでいるんですけれども、それを基軸に10のグループがそれぞれの1年間の取組について発表いたしました。

全体の印象は、小・中学校で今主流になっている探究的な学習の高校生版なんですけれども、穂高地域に自分たちが出かけに行って、そして、問題を見つけて、課題を絞り、そして、課題解決のための方策を話し合って、新たな提案書を作成すると。そして、例えば、具体的には、地元の商店の方に協力をしていただいて商品開発をして、その商品を穂商マーケットで販売すると。そういった一連の探究的な学習なんですけれども、小・中学校でやっているのに比べるとさらにダイナミックな学習が展開しているなという印象です。

その中でも特に私が心に残ったのは、先ほど言いました商品開発という中で、穂高地域、特に安曇野もそうですが、夏秋イチゴが非常に生産量が高いと。しかし、なかなか地域の人もよく知らないんじゃないかと。そこに着目して、何か穂商マーケットで来ていただいた方にPRするような商品をつくりたいということで、お店の方に協力をしていただいてつくったというようなことがございましたが、その中で、そのお店の個人商店の方が自分がこの地に移住して、この店を開くまでのいきさつを生徒たちに話をしてくれた。それで、この夏秋イチゴを使って商品をつくるなら、こんなふうにしたらどうというようなことを生徒たちと一緒に話し合って、その商品ができ上がったというような発表もございまして、結局そこに携わった生徒たちがそのお店の方の生きざまというか、そんなふうに直接触れて、この熱い思いを感じて、それを乗せて当日販売したというのが、映像からふと伝わってくるんですよね。そんなことを思うと、この取組そのものがキャリア形成というか、生徒たちのキャリア教育そのものなんだということを感じてきました。

専門高校はこうやって課題研究に取り組んでいるんですけれども、今、普通科の高校生も、豊科高校も明科高校も地域の様々な自然や歴史や文化について学んでいるというふうにお聞きをしておりますので、そんなことで、地域の高校の存在というのが非常に大きいし、そこで学んだ子どもたちは必ず安曇野の良さというのを心に刻みながら、そのさらに先をまた考えてくれるのではないかなと。

願いとしては、そういう子どもたちが安曇野市に住んで、そして、安曇野市の発展に直接力を発揮してくれれば一番うれしいんですけども、みんながみんなそうなることがいいとも私は思っていないくて、それぞれやっぱり自分の良さや夢やいろんな考えをどう花開かせていくかというのは決してここだけに閉じ込めていくというつもりは全くないし、大きく日本や

世界に羽ばたいてもらいたいと思うんだけど、ここの、小、中、高と通して、ここで学んだことが心に刻まれて、生涯ここを忘れないというか、そのことが非常に大事なんじゃないかなというふうに思っていますけれども。

そんなことで、ご質問にありました高校生の取組というのは時々新聞等では紹介されるんですけども、実は地道に、本当に日々の学習の中で地域で出かけて学んでいる姿があるということを是非お伝えしたいなと思ひまして、発言させていただきました。

市長 遠藤委員、今のご質問について、よろしいですか。

遠藤委員 ありがとうございます。

今の話の中で、安曇野市に移住して店を開くようになった方の経緯というか、苦労というか、喜び等々というような話もあって、私、今日の会議で一番お話ししたかったのはそこなんですけれども、一番大事なところを、やっぱり高校生、そういうところまでやっているんだなと感心しましたし、冒頭からいい話が聞けたと思います。

それに近い取組がまたフェスティバルでできればなど、そんなことを念頭に置きながら、後の発言をさせていただければと思います。ありがとうございます。

市長 では、ほかの委員さんから。

二村委員 キャリア教育の取組について、資料4で説明をまたいただきました。

子どもたちが社会に出ていくまでに身につけてほしい力を学年別に9年間を通したカリキュラムでなっています。先ほど、教育長から高校について具体的な事例をお話しいただきましたけれども、キャリア教育は小学校、中学校だけではないと思っています。県立高校では、信州学を中心に市内の地域素材を教材として活用しているということで、市内には特色を持った四つの高校があるので、キャリア教育を継続させる環境は整っていると考えます。その先には、社会人になって、一度就職しても、転職をしたり、また、起業をしたり、学校に通う人がいたり、職業観は様々だと思います。生涯にわたる時間軸で伝えるのも大切ですけれども、まずは生徒の知的好奇心を高めて、将来の仕事への憧れを強く持てるきっかけづくりの場を持つことが大切になると思います。

以前、県のホームページで、長野県出身で県外の大学へ進学した学生の長野県へのUターン就職率が36.5%とありました。これはたしか令和4年のものでしたけれども、その中で学生の声というのがあって、高校生活までに地元どんな産業があるのか触れる機会がなかった。地域の就職情報源が不足しているとありました。学校教育の中でのキャリア教育推進はとても重要なものだと思います。

今、学校の中では、学校運営協議会で学校と地域がつながっていると同じように、キャリア教育で安曇野市内の学校と企業がつながって、連携と協働を進めるわけですが、フェスティバルの事前、また事後でコミュニティスクールと絡めながら、企業の方々にはキャリア教育支援団体として、リアルを感じるような、また、本物に触れる、学校に入っていたいて、取組、協力をいただければと思います。

50以上の企業の参加をいただければ、もっと深く知りたいと思う仕事もあると思うんです。仕事を知る、企業を知る、ビジネスブースと、個人を知る、人を知る、ヒューマンブースに分けたり、働くことを通して自分らしい生き方を見つけるきっかけになってほしいと願います。

この中で、大人が場をつくって、その機会を生徒が受けるという受け身体験だと、受容的なイベントにならないかと、大規模になることで少し心配もあります。工夫が求められます。

キャリア教育の中で力を入れてほしいことは一つだけあります。コミュニケーション能力の向上ということです。少子化であったり、核家族であったり、そして、また、コロナで地域社会とのつながりが薄くなったこともあって、他者とのコミュニケーションを取る機会が減ってしまったこと。リアルな場面で人と接する機会が少なくなってしまった。学校の授業の中では、一斉授業だけではなくて、生徒同士が話し合う学び合いの取組はとても進んでいます。自分の気持ちを伝えたり、話し上手だけでなく、相手の話をしっかりと聞く聞き上手であることも生徒に持ってほしい力の一つと考えます。

質問ですが、生徒の希望が偏ることが想定されますが、本人の希望を第一優先するにしても、前向きな気持ちで取り組めるようにする配慮についてはどのようにすべきか、考えていますか。

学校教育課教育指導室指導主事 今おっしゃった、希望が偏るケースもあるかなというふうに思うんですが、私、昨年、伊那のほうのキャリアフェスティバルに実際視察のほうに行ってきました、各企業のところ、それぞれのほうに声をかけていきながら、あまり事前のところ、このブースは何人とかという決め事はしなかったんです。その中で、生徒の希望の中で、一つも集まらない企業のところについてもお互い声をかけ合いながら、実際に自分のところに来ていないところの状況が見受けられれば、こっちも空いているよと、声をかけ合いながらということで、自然と成立してくる部分もありました。先ほど、委員おっしゃったように、そこに何か生徒と企業間とのコミュニケーションが成立するかなというふうに思っています。互いに声をかけ合いながら、あまりこちらからもルールを決め過ぎずというところで、ブ

ースの行き来をやり取りというのはとても一つポイントかなというのは話しています。

それと、あとコミュニケーションというところについてですが、私も伊那のほうの視察に行つてすごく良かったなと思ったのが、各学校がそれぞれ集まって実際にコミュニケーション取することで、自分たちが学んだことというのが学校間を越えて、お互いに何を学んだ、こういうことを今後していきたいということを情報交換しました。だから、そういった場合はもう生徒にとっては、親世代の企業側とのコミュニケーションもそうですが、実際、子どもたちの間のコミュニケーションというのも、何か違った学校間とのやり取りというのもコミュニケーション能力を育むのにとっても重要だなというふうに感じてまいりました。

二村委員 ありがとうございました。

学校間を越えるコミュニケーションということで、安曇野市でも期待したいなと思います。

羽田野委員 私は安曇野市のキャリア教育の在り方、自分の思いというか、ということをちょっと言いたいと思います。

私、キャリア教育は単に児童・生徒が将来の進路と職業を選択するための教育だけではなくて、キャリア教育の根っこの部分は、子どもたち一人一人が社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方や自己実現するというようなこととか、自分の夢を実現させるための学習というものが含まれているというふうに思っています。

先ほどはキャリアフェスティバルの実施要綱の中にもありましたが、様々な大人と出会いということが私はすごく重要だと思っていて、できるだけ多くの大人たちと出会って、その人たちの生き方や経験に耳を傾けることというのが本当に大切なことだというふうに思っています。社会を経験している大人の人たちの生き方ですとか、今までの職業生活におけるキャリアの積み方、それから、その過程から得られるものというのが生の経験談として子どもたちにとって本当に貴重な情報になるというふうに思うからです。社会の中でどんな役割をして、どのように自分らしい生き方をしているかという現実を話していただくということは、教科書等とかでは得られないリアルな言葉で、趣があるのではないかなというふうに思っています。

その中で、長い人生の中で直面した困難ですとか、挑戦、それから、それを乗り越えていった対処方法なども学び知することで、社会の進路やキャリアに対する見方や知識が改めて深まるのではないかなというふうに思っています。社会に出て生き生きとしている大人を見たり知ったりすることで、そこに興味を持って、自分自身の仕事に対する価値観、それを見直すきっかけにもなるのではないかなというふうに思っています。

子どもたちや進路や将来、携わる職業を選択するに当たって、自分自身でどんな能力を養っていくか気づくということがすごく大事になってくると思うんですが、今、たくさんの大人の人の話を聞くという中で、学校でも先生がなぜ先生になったかでもいいですし、先生になるまでのストーリー、それから、それを子どもたちに話してもらおう。それは担任の先生だけではなくて、いろいろな、学校の中にいる先生から子どもたちに話をしてもらおう。それだけでも子どもたちにとっては大きな学びになるというふうに思います。

また、コミュニティスクールの推進で、地域の人が学校に来る機会も今非常に多くなってくると思いますので、その方たちに仕事の話をさせていただく時間を設けたりしていただければ、とてもいいキャリア教育の一つになるんじゃないかなというふうに思っています。

家庭では、なかなか自分の子どもに自分の仕事について話をする大人というのは少ないというふうに思うんですけれども、今日、会社でこんなことがあったとか、今、こういう仕事をしているとか、家庭の日常会話の中に子どもに伝えるだけでも、子どもの意識は変わるんじゃないかなというふうに思っています。

そういった身近な大人、それから、たくさんの大人から学ぶことが非常に大事だというふうに思っていますので、キャリア教育というのはそんなところからスタートなのかなというふうに私は思っています。

市長 ありがとうございます。

川北委員 私は松本から安曇野市に引っ越してきました。安曇野市を選んだ理由は、祖母が住んでいて、昔から安曇野が好きだったこと、景色がいいこと、主人が松本へ自転車で通える圏内であることでした。お店もあり、サイクリングロードや登山、キャンプ、スキー場も近いなど、自然遊びもいろいろできて、安曇野に引っ越してきてよかったなと思っています。

小4の娘は拾ヶ堰の学習やアクアピア、穂高クリーンセンターなどの社会科見学をしています。そういう中で、事前学習や班の仲間と話し合い、気づき、知ること、見学をして、また、学んだ中で、感想なんですけど、安曇野は空気が澄んでいて、景色がきれい。水もおいしい、農産物もおいしい、ずっと住みたい良いところと言っています。郷土愛や安曇野の良いところとか、好きという思いは日々の生活や学校生活の中でちゃんと身につけているなと実感しています。当たり前だと思っている日々の生活に感謝すること、見えてくるものがあるんだなと思いました。

コロナで、お祭りなどの地域行事等を知ることがすごく減ってしまったんですが、地域の方とのつながりや人の話を聞くこと、そういう関わりができればもっといいなと思っています。

す。

行きたい大学や夢の実現のために東京へ行く若い人たちは多いです。親としては、自分の将来のことは自由に決めてほしいなと思っています。ここに住んでいなくても、安曇野産のものを購入したり、思ってくれていたらうれしいです。また、結婚や出産、人生の転機に安曇野に戻ってきてくれるかもしれないという期待はしています。

若い世代がこののち、住みたいまちと思えるようにするには、人が集まる場所、仕事の選択肢が多いこと、就職して安定した福利厚生があること、生活の環境が整っていることが選ばれる理由であると思います。病院や公共交通機関、例えばバスなど、幅広い世代の人が気楽に利用できる交通手段が増えるといいなと思います。また、共働き世帯も子育てをしやすいまち、子育てに経済的負担が少ないまち、家賃制度があると人は増えるかなと思っています。

市長 ありがとうございました。

現段階で、何か補足で是非このことをという方がいらっしゃいましたら、お願いしたいと思います。

(発言する者なし)

市長 この後、また、それぞれ、今までの議論を踏まえた上で、幾つか、この事業に対して期待することということを、また、皆様からのご意見を賜りますが、私からちょっと一言だけ。

この事業は伊那で、先ほど話がありましたように、何回もやっているうちに、10年くらいやっているうちにですけれども、伊那の場合は、伊那市を中心に周辺の町村もございまして、それぞれの地域の持ち回りでやっている市町村も入っております。私も地域全体でやる持ち回り事業のほうについては何回か出席させていただきまして、それぞれの市町村でやった内容をお聞きしたことがございます。

一番印象に残っているのは、もちろん、企業さんだとか、そういうところの話を皆さん、非常に役に立ったとおっしゃっていましたが、子どもたち、一番訴えかけたのは、その子どもたちのお父さん、お母さんで、例えば、美容院をやっている方、あるいは、大工さんをやっている方、そういうお父さん、お母さんが自ら来てお話しをする機会というのも設けてということが、その子どもたちにとって非常に、子どもたちが感銘を受けたと言っていたことが非常に印象に残っています。

ですから、今回、もちろん、企業のブースもありますけれども、このフェスティバルというのは多分ブース1回じゃなくて、その前後に事例というがあるので、是非そういった自

分たちのお父さんやお母さんが自分たちの見えるところを外して見えないところでどういう仕事をしているかと。その仕事を選択する間にどういう経過を経たかということは是非、先ほどの先生の話もありましたけれども、そういう身近な人たちの体験をまたうかがうのが大事かなと。

今、様々なご意見を頂戴しまして、引き続き、このキャリアフェスティバルの方向性についてご意見いただきたいと思っています。

先ほどの事務局の説明によれば、令和4年、令和5年と堀金中学校で先行実施してきたものを全市に拡大して実施したいと。それから、安曇野市の中学生キャリアフェスティバル、中学1年生を対象とすると。さらに、このフェスティバルの目的というか、生徒が地元で働く大人の皆さんに触れて、そこから自らの生き方を、働く意味を考えるということと、プラス、情報等を手にしたいというようなことがあったと思っています。

今ほど、皆様からいただいたご意見を踏まえまして、皆様には、この事業そのものに対して、こういったことを期待したい、こういったことをやればいいじゃないかというような話も、ついさっきから幾つかいただいていますけれども、その点。

それから、このキャリアフェスティバルを経験した子どもたちに対しては、将来どうなっていきたいとか、どんな体験をしてほしいのかというようなことがありましたらお願いしたいと思っていますし、それから、これは教育委員会の事業として行うんですけれども、今の市長部局、例えば、農林部とか、商工観光スポーツ部とか、そういうようなところとどんな連携をしてほしいかというようなことがありましたら、ご自由に議論賜りたいと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。どんな意見でも結構でございます。

羽田野委員 キャリアフェスティバルにおける私の期待なんですけれども、先ほどの話の中で、多くの大人のひとと話をさせていただきたいということの延長になってくるんですけれども、参加する方は、単なる職業の説明ですとか、その中でやっていくことだけではなくて、もちろん、内容はそうではないということは分かっているんですが、要するに何々会社ではなくて、何々会社の何々さんの話を聞くというような交流をしていただければいいのかなというふうに思っていて、個々の人と直接的な交流を通じることで、より深い理解や共感が生まれることを願います。

また、私、今、ここにある会社もあるんですけれども、地域で起業した人、要は仕事を興した人たちにも参加を呼びかけていただければいいかなというふうに思っています。社会に出ていくということを目指していくということは、単に会社に就職するということではなく

て、夢を実現するために起業するという選択肢があるということも知ってほしいというふうに考えます。それは、商業に限らず、農業、サービス業など、様々な分野で起業した人々の経験や挑戦に触れることで、自らの夢を実現させる可能性を見いだすきっかけになるのではないかなというふうに思います。特に地元で起業した人のエピソードを聞くことで、その地域の魅力ですとか資源、それから、起業への情熱に触れることができるのではないかなというふうに思っています。

その方たちがどのような経験を積み、なぜこの地を選んだのかを知ることで、地域のコミュニティ、結束ですとか、成長に貢献できるかもしれませんし、彼らのストーリーから地元のよさですとか、活力を再確認することができるかもしれないというふうに思います。ですので、起業家の話を通じて地域の若者たちが自己実現やキャリアフェスティバルに対する新たな視点が得られるように、キャリア教育の一環として積極的に立ち向かっていただければいいかなというふうに思います。

そういう起業家については、私の職業柄もあるんですけども、起業相談というのが商工会議所のほうにたくさん来ます。同じように安曇野市にも商工会もあるので、そういったところと連携をすれば、多分、そういったような起業家の方は参加していただけるんじゃないかなというふうに思って、そういうところとの連携も図っていただければというふうに思います。

市長 今のご意見はどうですか。

学校教育課長 貴重なご意見ありがとうございます。

こちら、各会社へ参加の募集をする際に、企業のほうにこちらのほうから企業の紹介ということで参加していただくのではなく、そこで働いている方、どういったお仕事をされて、なぜというところをお話しただけの方、そういった方をお願いするということで、募集のほうをこちらのほうではかけようと思っております。

大変貴重な意見と思っておりますので、是非参考にさせていただいて、特に地域のほうで起業された方、こういった方の情報もしっかりと集めて、参加していただけるように募集のほうを行っていきたいと考えております。ありがとうございます。

市長 その他の意見も是非お願いします。

遠藤委員 今の羽田野委員の、企業からいろいろな安曇野の魅力を聞くというのは大賛成で、むしろ今日のこの会の結論はそこにいくんじゃないか。もうそんな話が今の話し合いの中からも出ていましたけれども、私、先ほど言いましたけれども、この会では、私自身は安曇野

市のキャリア教育のさらにそのフェスティバルに対しての願いというか、ポイントというのは、もっと絞って具体的に考えていく必要がある。それがなかったら、一般的な企業説明会とか、企業紹介というか、それで終わってしまう。安曇野市のキャリアフェスティバル、安曇野市がつくところに意味があり、そこをどうやって具現化していくかということがポイントになるということだと思います。ですので、この安曇野市のキャリア教育の在り方、目指すものというのは、冒頭で市長さんのお話の中に、地元安曇野市、安曇野に就職してほしいという願いと大きな学び、様々な世界で活躍してほしいという二つの願いという言葉がありました。両方とも大事だと思います。

だけれども、今回は、私は地元安曇野に就職してほしいという、私が最初の発言で言いました、心配される今後の世界。安曇野市のことを考えたときに、率直、かつ現実的な切なる願いと思うんです。安曇野市で就職してほしいということ。それを全面に出していいんじゃないかなということだと思います。ですので、地域の職業人から安曇野への愛着と誇りを学ぶ、そんなような方向性というのがいいんじゃないかなということだと思います。

ただ、今、愛着と誇りを学ぶと言いましたけれども、どうやって学ばせるかというのが一番、当然大事になってくると思うんですけれども、一般的なキャリア教育の目標になっています。資料にもありますが、自分のよさを感じる自己肯定感や社会に役立ちたいという自己有用感にさらに何を加えれば安曇野への愛着と誇りになるか。その具体的な手段の一つとして、今日、この後、今ですが、キャリアフェスティバルを通しての学び、それをどうするかという話になっていくと思います。

そのフェスティバルの中身、具体的なものにだんだんと話が向かっているんじゃないかと思いますが、私も全く先ほどと同じで、堀金中学校の実践の中の感想文がありましたけれども、この感想では不十分、目指すものは。やはりこの中に安曇野市を意識した感想文、安曇野市と関わった、その自分が聞いた企業との感想、または展望とか、夢とか、それが欲しい。そういうフェスティバルになるような事前の準備とか計画、絶対必要じゃないかと思います。それがないと単純にお話を聞いて、うれしかった、楽しかった、知らないことが分かったで終わってしまうのでは、ということを感じました。

教育部長 ご意見ありがとうございました。

安曇野市との関わりというところがやっぱり本当に必要なところじゃないかと思います。そういったものを目指すようなフェスティバルに是非頑張っていていければと思っております。

ただ、やはり私どももしていきますけれども、生徒たちにも主体的になって、関わって、そういうのを目指していってもらえればと、今考えております。

市長 ほかの方、何かありましたら、是非どうぞ。

二村委員 学校だよりとかホームページを見て、行事や地域との関わりを発信しているのがとてもうれしく読んでいます。保育園や幼稚園活動と同時的で、自然環境と地域資源を活用した体験、これを取り入れた保育を進めていって、暦を大切に、行事を毎月のように取り入れたり、また、おじいちゃん、おばあちゃん先生から、機会を持って教わったりしている。そんなところを読みます。

最近では、雪の楽しみ方で、かまくらを作った、汗びっしょりになった。自然相手に精いっぱい遊んでいる様子が見て取れました。子どもたち、今が好き、ここが好きと体感している様子が見えて、とてもうれしく思いました。

あと、中学校のほうでは、穂高東中学校の生徒が秋の落ち葉の季節には、隣の碌山美術館の落ち葉掃除を50年間続けているということで、地域に貢献しています。また、三郷中の生徒は小学校の持久走大会のときに、コースに落ちた葉っぱで小学生の児童が滑って転ばないように一生懸命落ち葉の掃除をしていたということで、それを見た地域の方から感謝の電話をいただいたということでした。目には見えない心の発達について知ることができて、本当に誇らしく思いました。地域の方からのお声がけも生徒が受け取り、また、うれしく思ったと想像します。

人の役に立つ仕事がしたい。優しい心を常に持っていたい。喜ぶ顔が見たい。してほしいではなくて、したい気持ちに気づくには多くの企業との出会いと多くの人との出会いによって湧き上がることだというふうに思います。地域の方々は大きな関心を持ってこの取組を見ていると思いますし、もちろん、応援の気持ちを持っていただけることだと思います。

私は現在農業に従事していますけれども、JAが学校と連携して食の教育を展開しているというアグリサポート事業をしています。子どもたち、小、中、高を対象に85学級、2,386人は延べですけれども、参加で、種をまいて、管理をして、収穫をして、食べるまで取り組んでいます。

農業とは粘り強く取り組まないといけないんですけれども、その時点で疑問を持って、考え続けていって、気候変動や環境に配慮する。ある意味クリエイティブな仕事だと思っています。

国が進めているみどりの食料システム戦略では、2050年までに耕作地に占める有機農業の

割合を25%に拡大することを目指しています。随分先のことだなと思いますけれども、食と農と環境を考える大切な職業の一つだと言えます。

もう一つ、会社の社会としての問題の一つだろうとは思いますが、女性のキャリア形成支援についてですけれども、女性管理職の割合が低いなど、重要な視点になると考えます。女性の仕事と生活の調和は、ワーク・ライフ・バランスです。男性も女性も家庭や社会を共に担って、一人一人で能力や個性を十分に生かしている。そういう思いを持っている企業にまた積極的に参加していただきたいなという希望を持っています。

優しくて人を思う人に育てる。この生徒たちの思いを聞いて、自分の適性や可能性について自覚させたり、また、自分の意思で進路を選択するまでにできるように、気づくことができるように、適切な情報を提供する。先生だけではない、キャリアガイドの方々を置くとか、何か先生をフォローする。キャリアデザインを手伝う。どのような関わり方をするのか。方向性は何か見つかっているでしょうか。

市長 今のご質問にお願いします。

教育部長 今お話にありましたキャリアガイド、キャリア教育の推進のというところですが、現在は個別のそういった職種というものを想定はしておりませんが、今後、これからのキャリア教育の進め方、これを拡充する中では市の教育委員会のほうでもそういった専門職的なものを配置する。また、サポーターを募集するなどを考えていかなければいけないということも将来的には研究させていただきたいと思っております。

川北委員 令和4年、5年の堀金中学校のキャリアフェスティバルの資料を読ませていただきました。中学生を応援し、期待して協力してくださった企業やたくさんの方々がいるこのような環境がありがたいなと思いました。

今後の全市7中学校、1年生対象ということで、今までにない取組を組織し、事前学習などを進めるというところで、先生方の負担が大きいのではないかなと心配していますが、様々な地元企業やそこで働く方々との交流間から知ること、感じること、子どもたちにどんな学びや気づきがあるのか、期待しています。

興味を持つこと、自分にできること、何ができるのかと考えること、中学2年生の職場体験学習に、まだ将来につながる経験になると思います。将来なりたいもの、実現したいもののために勉強する。大学に行く、専門学校に行く。今できることに力を注ぐことができると思います。

今、中学2年生の職場体験学習は、準備してもらった中から自分の興味があるところを選

ぶという感じで、最終的に先生に決めてもらって行くという流れと聞きますから、今後は、中学生が自ら行きたい、意欲ある企業に連絡をして、職場体験学習させてもらおうというところまでいけたらすごいなと思っています。

質問なのですが、資料1の6ページの(3)の対象のところ、学校名、人数の後に、③とか、④とか、ないところもあるんですが、これは何の印なのかなというのを知りたいのと、ちょっと2年間ということですが、堀金中学校ではどのように事前学習、準備を進めてきたのかを知りたいなと思います。

学校教育課長 まず、最初のご質問ですが、対象者のところについて、この③、④ですが、申し訳ありません、これはバスの配車台数です。これは、振り分けではなくて、各学校で会場まで移動するのにどうしても市でもバスを確保する必要がございまして、その台数を入れてあります。

学校教育課教育指導室指導主事 バスの配車台数のところについて、課長から話があったとおりです。堀金中学校のところ、先ほどの職員の負担のところも含めて事前学習という点ですが、やはり私も、先ほど、伊那の視察のほうの話もさせていただいたんですが、ちょっと市役所職員に何名か伊那のほうでもお会いできたので、そのところ、事前の学習のところについてもお話聞いたところ、やはり事前も本当にすっきりとしていて、こういうふうにキャリアフェスティバルがあるよということを事前学習で1時間ほど。伊那の場合でいくと、前年度の事例等がありますので、動画で見たりとかということで、事前学習を行って、その後のところで、実際に企業数が、例えば、伊那の場合、80ぐらいありましたので、その企業がどういうものかというところについての一覧を見て、自分であらかじめ決めておくというぐらいな状況でした。

私もそれは非常にいいなというふうに思うのが、結局、その事前学習のところで、5時間も6時間もというふうな時間をかけていくと、やはり現場にも負担がかかる。それによってカリキュラムも変えなければいけないとか、様々なものを組み入れなければいけないという状況があるんですが、やはり大事なところは何が行われるかということと、事前にこういった企業があつて、事業所のほうが参加するという一覧のほうをしっかりと見て、生徒たちが自分たちで自主的にまず決めておくというところのプロセスは最低限踏まなければいけないなと思うんですが、そのあたりの、それ以外のところで学校現場に負担がかからないようにというところは、来年度、計画していくところでも非常に重要なポイントなのかなというふうに思っています。

堀金中に関しましても、そのやはり事前のところで決めるということであったりとか、自分たちで将来のやはり、その後の職場体験等につなげていくということもありますので、自分の将来構想等も含めたというところで学習のほうも進めてきたというふうに聞いていますが、そのあたりのところの各校の工夫というのは、キャリアフェスティバルで7校実施したときに、それぞれ工夫ができていのかと思うんですが、それは一方的にこういうふうなプロセスでやってくださいというような、負担になるというようなことがないようにというところはきちんとこちらでも整理していきたいなというふうに思います。

市長 よろしゅうございますか。

その他、ご自由に意見、どうぞ。

遠藤委員 7ページにある今後の計画等に関わって、一つ質問なんですけれども、先ほどの話の中で、各企業の方との打合せのところでは、単純な企業紹介とかそういう話で終わるのではなくて、企業として安曇野市でしている意義といいますか、良さとか将来性、そんなような話とか、また、もっと言えば、安曇野市でなければならない理由とか、また、その企業で働いている方々にしてみると、そこで働いている理由とか、良さとか、ありがたさとか、そういうものも当然、そういうものを持っているか。むしろそっちをメインにして話をしてもらうということで、非常にありがたいなというふうに思っているんですが、その予定の中で、令和5年度内に商工会や工業会との顔合わせというふうに書いてあるんですが、ここら辺が企業の方へ等のアプローチの第一歩になると思うんですが、この工業会、商工会の方というのは、代表の方のことをいっているのか、個々の企業のことをいっているのか。会の代表のことをいっているのかということと、それを受けて、その下に推薦事業所の集約というふうになっているんですが、この推薦のところがよく分からないんですが、誰が、どういう形で推薦してくるのかということをお願いしたいと思います。

先ほど言った、ここの最初の段階をもっと丁寧に扱って、こちらの願い、こういう話をしてもらいたい、こういう体験をさせてもらいたいということをしっかりと伝えないと、4月の参加企業公募というのが形式的なものになってしまうと思いますので、本年度内だともう1か月ちょっとしかないと思うんですけれども、そこら辺の具体を少しご説明いただければと思います。

学校教育課長 それでは、まず、商工会、工業会との顔合わせ会につきましては、こちらにつきましては、商工会の本所、または工業会のほうも代表役員の方との顔合わせ会ということで、こちら、教育委員会のほうからそちらのほうにお時間を取っていただいて、キャリアフ

フェスティバル、これを行うに当たっての事業参加募集のご協力の直接的な依頼と内容の説明、これをさせていただきたいというふうに考えております。現在、商工会等につきましては、理事会のほうの開催予定を商工労政課のほうにも間に入っていて、伺いながら、連携を取っているところでございます。

その中で、事業の内容を説明し、個々の各参加団体等、こちらのほうの商工会に入っている団体のほうへ事業の周知を進めていただきたいということで、現状ではその打合せをさせていただいております。

また、下の段、小・中学校学区内にある推薦事業所の集約、これにつきましては、すみません。ちょっとご説明の文言がありませんでした。これにつきましては、各小・中学校が職場見学、職場体験等でお世話になっている地域の事業者等、そういった企業等で学校のほうでも、この企業には是非参加してもらいたいというところがあれば教育委員会のほうに寄せてくれということで、各小・中学校のほうにお願いをしているところでございます。そういった小・中学校でも、この企業については、地元企業として知ってもらいたい。そういったところに関して推薦を上げていただいて、市のほうからのお願い等、説明をさせていただいて、ご参加いただけるようであれば、是非参加していただければというふうには考えております。

市長 これは推薦がないとどうなるんですか。

学校教育課長 いえ、こちらにつきましては、一般の募集をかけますので、推薦がなくても大丈夫です。ただ、学校として参加していただきたい企業等があれば、それをお寄せいただきたい。学校、教育委員会のほうでもそういった企業に是非声をかけたいと思っておりますので、今回、予定の中に入れさせていただいているところでございます。

遠藤委員 そうすると、商工会、工業会の方が代表者との打合せ会ですね。

各学校から職場体験等を通して、この職場の方にお話を聞きたいというのを推薦してもらって、推薦を受けますよね。それ以外の企業さんも当然対象にはなってくると思うんですけども、そうすると、先ほどのこういう話をしてほしい。こういう体験をというお願いとか、説明というのは、また別のところで当然やるということなんですよ。

学校教育課長 はい。

遠藤委員 分かりました。ありがとうございます。

市長 ほかの委員さんから、この件につきましてありましたら、お願いいたします。

では、様々なご意見を頂戴しました。ちょっと教育長、まとめを兼ねてお願いいたします。

教育長 様々なご意見、ありがとうございました。

キャリアフェスティバルという新たな取組なんですけれども、実は、これは私は行政としては、「学校に新しい種をまく」というようなつもりでおります。ですので、このキャリアフェスティバルという、それはバスの手配であるとか、あるいは、たくさんの事業所等から来ていただけるようなことは、それこそ教育委員会を挙げて、市を挙げて取り組むわけなんですけれども、実際に学ぶのは生徒たちでありますし、それをどういうふうに生かしていくかというのは学校であると思っています。

堀金中の2年間の取組は、7中学校のうちの1校ですので、堀金中は自分たちの生徒の職場体験学習を念頭に置いたキャリアフェスティバルだったんですよね。ですので、これまで職場体験学習というのはずっと長く続いてきているんですけれども、先ほど、ある程度、学校との連携を通じて、長年、生徒たちを受け入れていただける、そういったところを大事にしながら、毎年、毎年、積み重ねてきているものですから、そういうところに生徒を受け入れてもらって、体験をさせてもらっているということもございます。

ですので、今年はどこが何人、どこが何人というようなところもあって、子どもたちの中には、第一希望ではなくて希望の低かったところに行かざるを得ないみたいなのところもありました。また、実際、受け入れる側にとってみても、中学生ができる体験というのがそうたくさんあるわけではないし、その企業なり、会社なりの、例えばものづくりの中心部分のところを中学生がぽっと行ってできるということでもない。ですから、中学生ができる仕事を割り振っているというようなところもあって、これは職場体験そのものには課題も実はあったわけです。子どもたちは学ぶことによって新しいことが学べたという、そういう新鮮な感覚というのが、当然、貴重な体験ではあるんですけれども、そういったことを堀金中でも何とかしたいという思いは根底にあったと思います。

私どもが、キャリアフェスティバルというのと、同時ぐらいに堀金中は自分のところで手を挙げて、やらせてくれということで、それで、校長先生が先頭に立って、堀金地域の、本当にこれまでお声がけもしてこなかったようなところまで、具体的にはコンビニの店長さんだとか、それこそお医者さんまで足を運んで、声をかけて、それで協力してもらって、2年間で非常にたくさんの方々に協力してもらいました。

基本的には、子どもたちがキャリアフェスティバルで何かを感じた、そこに職場体験に行けるという道筋をつけようと思ってやったんです。そのことによって、非常に大きな成果としては、私は子どもたちの意識が変わったと同時に、受入れ側も意識が変わったんじゃない

かと思うんですね。このことが非常に私は大きなことだなと思います。

今度は、市として7校の生徒たちが全員来るわけですので、学校としては、これを、職場体験学習を、これは当初、これも全部ひっくるめてキャリアフェスティバルに統合してはどうかと言ったんだけど、学校側は、職場体験学習は続けたいと。これは断固譲らなかったものですから、これは中学2年生に位置づけて、その前段として中1に持ってきたわけです。

ですから、これは、学校としても大きな挑戦だと思うんです。これまでみたいな職場体験学習を去年もこうだったから、今年もこうだけではなくて、今年の子どもたちがキャリアフェスを経て職場体験に行くということはどういうことになるのか。受け入れる企業の意識もどう変わるのか。いろんなことが、学校が新たな挑戦をしていかなきゃいけない。こういうことだと思います。

また、生徒にとってみても、実はこれは大人がお膳立てをして、全て子どもたちにどうぞだけじゃなくて、願わくば、子どもたち自身が運営ができるような。中1なものですから、なかなか、中学に入ったばかりの生徒が、しかも7校離れている学校で、どう連絡を取って、一つのリーダーを育てていくかということは課題ではあるんですけど、願わくば、自分たちがつくっていくキャリアフェスにしたいというようなところに持っていければいいかなというふうに願っております。

いずれにしても、ただいま申し上げましたのは、生徒も学校もこれを一つのきっかけとして、安曇野市の教育全体をより「もの や 人 や こと」に深く興味を抱いて、自分から考えて動けるような、そういう子どもに育てたいという、そういう今後につながる活動というふうになっています。

最後の一つですけども、今日は給食が、月一度ある「安曇野の日」という日でございました。北部学校給食センターから給食郵便というのが届きまして、今日のご飯が有機栽培米、ありがとんの磯焼き、大根サラダ、安曇野汁とデザートというような献立なんですけれども、この有機栽培米は有明のお米で、ありがとんが三郷で飼育したもの、それから、大根、白菜、ニンジン全て安曇野産、みそももちろん安曇野産100%大豆で絞ったものということで、ほとんど全部に近いものが、安曇野産のものだということです。冬場、大変な、野菜、大変なんですけれども。

その給食郵便に、有機栽培米の生産者からのメッセージがついておりました。そんなに詳しくは書いていないんだけど、雑草との闘いとか、いろんなことがちょこっと書かれて

いて、是非目をつぶって、それで、感覚を味にだけ集中させて、味わってみてくださいという熱いメッセージが書かれておりました。

人に対しての興味を抱くということは、キャリフェスで幾つか自分の興味を選んでやるということもあるんですけども、やっぱり先ほども出ている、日頃から身近な人に対して、普段は何も思わないけれども、その人がどういう苦勞をしてこれを作ってくれているんだというようなところに目の向くような工夫もつくっていく。これが小学校、中学校、ずっと通して大事なキャリア教育じゃないかなというふうに思います。

したがいまして、このキャリフェスの種がいろんなところに、普段の生活にもまた波及して、安曇野市の子どもたちを育むことになればいいなと、そんなことを思っております。

市長 ありがとうございます。

このキャリア教育につきましては、皆様から大変有益な様々なご意見がありまして、事務局のほうでも、今後、また、折に触れて皆様に状況を報告しながら進めていくということになります。

◎報告事項

市長 それでは、今日の次第の（２）でございます。

報告事項に移ります。

小規模特認校制度導入の進捗についてでございます。

これは、既にこの資料の中にもございますけれども、12月26日の教育委員会の定例会で皆様のご承認、決定を経たものでございますので、必要な部分だけ、説明をお願いいたします。

学校教育課長 「小規模特認校制度導入の進捗について」資料を読み上げ。

市長 教育長、何か補足はありますか。

教育長 現在、6年生、5年生を中心に、明北小学校をどういうようにしていきたいかというようなテーマと総合的な学習が展開されていて、そのまとめの時期になるということで、近々、今月末ですけども、総合的な学習の時間の発表会というものが予定されております。私も是非お聞きしたいなと思っています。

制度そのものは、今報告にありましたように、市のほうでも道筋をつけているわけですが、特色ある、魅力ある学校づくりは明北小学校が担っていくものでございます。

また、子どもたちがどういう期待を持って新しい友達を受け入れようとしているのか。そ

れから、一緒になってどういう学校にしていこうとしているのか。そういう子どもの考え、意見を事務局が聞く、そんな機会になればなということを思っております。

補足でございました。

市長 この点につきまして、委員の皆様から何かございますでしょうか。

(発言する者なし)

市長 では、この小規模特認校制度は、教育委員の皆様のご了解を得ながら、導入に向けて進めていくことを確認いたしましたところでございます。

◎その他

市長 それでは、最後、その他に移ります。

委員の皆様、事務局から何かありましたらお願いいたします。

学校教育課長 それでは、事務局のほうから、1点、皆様にご案内をさせていただきたいと思っております。

この後、4時15分からになりますが、豊科北中学校の生徒の皆さんが総合的な学習の時間で学んだ内容を市長のほうに報告をしたいということで、報告会を予定させていただいております。

この後、301会議室の会場を準備しておりますので、教育委員の皆様、また、傍聴の皆様、お時間になれば、是非そちらにもご参加いただければと思っております。

市長 それでは、本日の総合教育会議につきましては以上とさせていただきます。

貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。

◎閉 会

教育部長 ありがとうございました。

本日の会議事項は全て終了となります。

これで、令和5年度第2回総合教育会議を閉会といたします。